

こころ

第37号

平成25年 1 月

発行 高知厚生病院
広報委員会

◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。



新年の御挨拶



院長 山口 継志郎

新年お目出とう存じます。

年月のたつのは早いものです。平成も四半世紀 25 年を迎えました。当院も開設 50 年目です。半世紀を過ごした事になります。開院直後に東京オリンピックの聖火が病院前の国道を走り抜けた事が思い出されます。この 50 年間、地域の皆様の御援助と職員の皆さんの御協力により順調に経過する事が出来ましたこと厚く御礼申し上げます。

昨年末に政変があり、安倍内閣が成立致しました。経済再生、震災復興、外交を三本矢になぞらえ目標としています。達成には難題も多い事でしょうが、一矢も折れずに日本が良い方向にむかう事を期待したいと思います。

県行政もやがていつかは来るであろう南海トラフ巨大地震の耐震対策を強力に推進しようとしています。当院も耐震対策の一環として旧棟の改築を行う予定です。今年は巳年です。病院の何回目かの脱皮ということになります。工事中には皆様に御迷惑、御不便をおかけする事になるかと存じますが、御寛容下さいますようお願い申し上げます。

今年は災害もなく平和な良き年になりますようお願いいたします。

職員一同心新たに頑張りたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

平成 25 年 1 月吉日



副院長 山口 龍彦



□ 米国東部ホスピス視察旅行（1992年8月）

今回の話題は前回に引き続き、私の経験させていただいた二昔前のホスピス視察旅行（後編）である。今回はボストン市内にあって訪問看護を行なう「トリニティホスピス」と、米国で最も早く設立され、当時最も病床数の多かった「コネチカットホスピス」を取り上げてみたい。

ホスピスという名前は同じだが、トリニティとコネチカットではサービスの内容は大きく異なる。そして、あれから20年後の日本を見回してみれば、高知でもこの二つのモデルに近いことが行なわれつつあるようだ。ただ、医療保健、介護保険ですべてカバーされている日本のやり方は、20年前のアメリカのやり方とは若干違っている面もあり、今思い出してみても前回お知らせしたチルトンハウス同様に新鮮な感じがするのは不思議である。

□ トリニティホスピス

アメリカにおけるホスピスは、1974年に始まった。それが、1979年には210に増え、さらに1992年の時点で全米におよそ1800のプログラムが稼働していた。ほとんどのプログラムが訪問看護のシステムを持っており、必要な時には入院もできるとのこと。

ただ、自前で入院施設を持っているホスピスは、さほど多くはないようで、トリニティホスピスは訪問看護に特化したプログラムであった。そして、このような方式が当時のアメリカのホスピスの典型だとのこと。アメリカにおけるホスピスの数の爆発的な増え方は、多額の費用がかかる施設の建設を伴っていないからだと思う。

トリニティホスピスは、ボストンの中心にある有名なトリニティ教会の向かいのオフィスビルの一角にあった。ホスピスといっても、患者はここにはいない。オフィスにはナースの使う事務機とカンファレンスのできる部屋、そして電話の前に陣取ってナースのマネジメントや連絡を行なう係の人がいるだけである。いわゆる訪問看護ステーションである。訪米した1992年は日本に老人訪問看護の制度ができたばかりの年で、私も含めほとんどの人は実際には訪問看護ステーションというものをまだ見たことがなかった。それで、これがホスピスか？と面食らってしまった。

私たち視察旅行の一行は何班かに分かれ、それぞれ一人の訪問看護師に連れられて、訪問先に同行した。ある班は家庭へ訪問し、私たちの班は認知症の老人施設へと向かったことを覚えている。患者は高齢で認知症を持ちながら、癌にかかっている人であったが、まだ自力での歩行ができる程度の女性であった。彼女の診察と会話の中から問題点を探り出し、ケアについて施設内のケア責任者と打ち合わせをする。必要ならドクターに連絡して判断を仰ぐこともあるが、たいいにはナースの判断で症状コントロールを行なっていく。

このホスピスという名の訪問看護ステーションで扱う患者は、ボストン市内の人に限られる。自治体がメディケアのカバーできない分を受け持っているため、自治体によって扱いが違っているのである。ボストン市内ではこの訪問看護サービスが、無料で受けられるとのことであった。ただし、サービスを受けられるのは、癌とは限らないものの、余命が6ヶ月以内と限られていること、自宅で面倒を見たいというケアの主体となる人が家にいることが条件だとのことであった。



トリニティ教会

別れのための援助、訪問ボランティアのコーディネート、患者、家族へのカウンセリング、家事や雑用のための家政婦の派遣、家族の息抜きのための入院の段取りなどもホスピスの仕事の内であり、現時点で当院が行なっている在宅緩和ケア（在宅ホスピス）の内容とほぼ同じことが二昔前になされていたのだった。

□ コネチカットホスピス



20年前のコネチカットホスピス



現在のコネチカットホスピス（上空より）

アメリカでできた最初のホスピスがこのコネチカットホスピスだといわれており、1974年の開設である。トリニティとは違い、大規模な入院施設をもつ。以来18年間、米国のホスピスの最先端の働きをしてきているという。入院と在宅を併せ、年間で1800人以上の患者やその家族をケアしていると説明があった。ホスピスは病院に附属していない独立型の施設であり、広い敷地に平屋建ての52床である。意外にも個室は4人分しかなく、その他はすべて4床室であった。

米国では病院はほとんどが個室であり、多床室は人気がない。それに関わらずここが多床室中心であるのは何故か。それは、患者と家族とスタッフの相互の働きかけがホスピスプログラムの鍵を握っているという考え方があるからだという。死に向かって歩んでいるという同じ問題を経験している人同士の助け合いがある。家族も自分の身内だけでなく、他の患者の世話もお互いに行うことができる。最期の時も、先に逝く人を後の人が見守ることができる。後の人は苦しむことなく旅立って行く人を間近に経験して、死が怖いものではないかという恐怖から解放され、安心して過ごすことができる。

なるほど、このようにいい面もあるのだけれど、知らないもの同士また、家族をも含めて仲良く過ごさなければならないことの煩わしさもきっとあるに違いないし、ベッド上での排泄を余儀なくされるようになると臭気などでの気兼ねもきっと出てくるだろうと考え、当院ではこの方式を採用せずすべて個室とした。正解であったと思う。

このホスピスでは毎日様々なプログラムが用意されており、毎週発行されるパンフレットで広報されていた。私たちが訪問した週には18のプログラムが記されていた。ボランティアの楽器演奏や歌などの音楽、編み簞、タペストリー、ステンドグラスなどの工芸の時間、粘土細工や絵の時間、カトリックのミサ、夕べの祈りなど宗教的な時間などである。このように、残された大切な時間を有意義に過ごし、また家族に記念となる品物や時間をプレゼントするための様々な活動がボランティア自身の手によって行なわれていたのは驚きであった。

この建物で特筆すべきは、スタッフ用の「瞑想室」があることだった。この瞑想室は、カーペットが敷かれているほかは明かりも家具も何もないのであるが、天井に丸い穴があいており、硝子のドームを通して星空が見えるようになっている。毎週10人以上、多い週には24人が亡くなるというストレスフルな環境では、こうした部屋が救いとなっていると説明された。

ボストンやコネチカットを訪問してからはや20年が過ぎた。私たちのホスピスが20年前のアメリカの水準をはるかに越えているのなら嬉しいのであるが、現実はそのままで追いついていない。もちろん、癌の症状のコントロールはかなり上手にできるようになって、痛みなどの苦痛を取る技術は世界でも遜色あるまい。しかし、人生を最期までどのように楽しむか、また、それを援助することが十分にできるようになったかということ、まだ追いついていないように感じるのである。



20年前のコネチカットホスピス（玄関前にて）

緩和ケアレポート

緩和ケアレポート①

緩和ケア病棟師長 門田 和代



緩和ケア病棟にサンタクロースがやってきました!!



12月某日、小栗サンタさんと看護師トナカイさんが、患者さんにクリスマスプレゼントをお届けしました。患者さんご家族がとても喜んでくださり、みなさん一緒に記念撮影を行いました。患者さん・ご家族の喜ぶ笑顔で、私たちスタッフも皆さんと一緒にとても楽しい時間を過ごすことができました。この日、病棟スタッフは、皆様からかけがえのない笑顔のプレゼントをたくさんいただきました。



皆さんの笑顔素敵でしょ？
今日は小栗サンタも白ひげです 笑

緩和ケアレポート②

医療ソーシャルワーカー 山下 梓

『工房Ann』に行ってきました



毎年お伺いしている『工房Ann』。

ここはフェルトづくりの専門の工房です。毎年、フェルトのお財布や小物入れを作りにお伺いしています。昨年も、地域連携緩和ケア支援室の看護師、ソーシャルワーカー、訪問看護師でお伺いしてきました。

私達が『工房Ann』そして、患者様・ご家族・愛犬ラッキーに出会ったのは、平成22年7月12日。それから145日間、患者様の笑顔、そしてご家族の温かさに私たちスタッフが支えられていたように思います。

そして現在、変わらぬ笑顔で毎年ご家族とこうしてお会いできる喜びをかみしめています。

昨年はスカーフづくりを行いました。不器用な私たちに丁寧に教えて下さり、いつも帰る時には素敵なフェルト作品が仕上がっています。今年もまた『工房Ann』の笑顔に会いに行きます。



フェルトってなあに?!

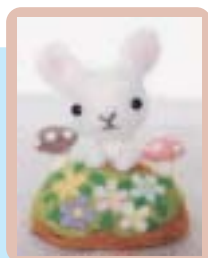


羊毛の表面には「キューティクル」という、一方向に向いた「ひだ」があります。

羊毛をこすることで、繊維どうしのキューティクルが絡み合っただたまりになり、「フェルト化」します。

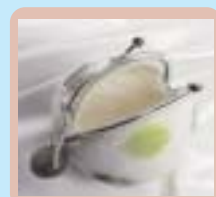
フェルティング ニードル

針先に小さな突起をいくつも持った専用針で羊毛を突き刺すことで繊維がひっかかり、絡み合っただたまりになります。マスコットやアップリケなど、繊細な作品作りにむいています。



水フェルト

羊毛を湯や水につけてキューティクルを広げ、せっけんですべりを良くしながらこすり、フェルト化させます。カバンやマフラーなど、大きめの作品作りにむいています。



ご存知ですか？

在宅ケアって？ ホスピスケアって？
在宅ホスピスって？



在宅ケアって？

自宅または希望する家などに居て、自力での生活が困難な療養者が、家族、介護職、医療職、福祉職、ボランティアなどの協力や支援により、希望する生活をすることを可能にするための手段です。

ホスピスケアって？

自らの意思と選択にもとづいて、最期の時までを少しでも快適に生き、その結果として、安らかな尊厳に満ちた死を迎えたいと、自ら望む末期のがん患者さんをサポートする理念です。



在宅ホスピスって？

末期癌（がん）患者さんなどを対象に、延命処置をせず、身体的苦痛を和らげて生を全うできるように自宅で行う医療です。ホスピスにおけるケアを患者さんが住み慣れた自宅で行うものです。

高知厚生病院では、主にがん患者さんの自宅での生活を応援しています。痛みや苦痛、不安を抱えた患者さん、家族を支援しています。医師、看護師、医療ソーシャルワーカーによる訪問診療、訪問看護、医療連携、がん相談を行い、がん患者さんと家族が、「家に居てよかった」と思える最期を支援します。

院内行事

クリスマス会

3階病棟 介護福祉士 武政 光代

12月20日『おもいつきバンド』の皆様をお迎えしてクリスマス会を5階レストランにておこないました。

『おもいつきバンド』は、ギター・ベース・キーボード・ドラム・ボーカルと総勢8名の本格的なバンドで正直驚きました。

クリスマスソングから昭和の歌謡曲、洋楽までと盛りだくさんの内容でした。口ずさまれる方、一生懸命手をたたいている方、体一杯でリズムに乗っている方、目を閉じて聞き入っている方等、観客の方々は思い思いに楽しまれたようです。



演奏の途中では12月生まれの方のお祝いをしていただき、みんなで生演奏をバックにhappy birthdayを歌い、最後には赤鼻のトナカイの振り付けを教えていただき、踊ることもできました。

終わった後で部屋に帰られる方に「楽しかったよ」と笑顔で言っていただき、うれしかったです。これからも、皆様に喜んでいただけるレクリエーションを企画していきたいと思います。

京都府議会 府民生活・厚生常任委員会 来院

平成24年10月17日に京都府議会 厚生常任委員会による、管外視察がありました。

10名の京都府議が、来高されて、当院での在宅緩和ケア、緩和ケア病棟を視察されました。中四国に初めて、緩和ケア病棟を設置したこと、又、訪問看護ステーションや緩和ケア支援室を設置し、在宅療養支援病院として先駆的な取り組みを行ってきたことなどを高く評価していただきました。又、この視察を、京都府政に反映させていくとおっしゃっていただくことが出来、お役に立てて良かったです。



リハビリテーション課より

当院では訪問リハビリテーションを行っています。

訪問リハビリテーションとは、心身機能の低下や体力が低下された方で、通院することが困難な方に対して理学療法士がご自宅を訪問し、必要な指導を行うことです。

<対象となる方>

介護保険を持っている方で主治医が必要と認めた方です。(医療保険の方はご相談下さい)

<内容>

- ① 日常生活動作の訓練
(ベッドからの起き上がり、車椅子の移乗、トイレ動作、歩行等の練習)
- ② 寝たきり防止と身体機能の維持
(関節拘縮の予防や、筋力向上の訓練を行います)
- ③ 福祉用具や住宅改修のアドバイス
- ④ 家族への介助指導

<お問い合わせ>

担当ケアマネージャー、又は当院リハビリテーション課まで。



事務部 総務・用度課よりお知らせ

当院では、平成25年3月着工を目途に、一部外来・南病棟を耐震化に伴う改築を行うことになりました。施工内容は、南病棟2階建部分(1階外来、2階病室等)を解体し中庭駐車場(東)も使用し新病棟を建設するとともに、既設改修と併せて災害に強い新しい病院へとリニューアルを図るものです。

一部解体以外は、現病院の機能を維持しながらの工事となります。安全には万全を期して進めさせていただきますが、一部騒音や振動など当院をご利用の皆さまや近隣の皆さまにはご迷惑をお掛けする場合がございます。特に外来診療でご来院の方は、診察室の移動等に伴いご不自由をお掛け致しますが、完成まで何卒皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、工事期間中の診療体制は何ら変わりませんのでご安心ください。



当院は
平成15年9月22日より
日本医療機能評価機構
認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人
日本緩和医療学会より認定
研修施設として認定
されました



◆ 厚生労働省より
医師の卒後臨床研修施設
の認定を受けました

編集後記

2013年がスタートしました。広報誌も皆様の御意見やご協力を受け、成長していこうと思います。何卒よろしくお願いいたします。



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>